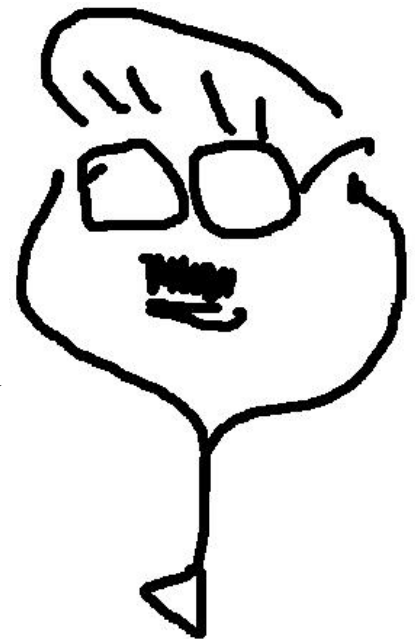


～ 昔 ～

骨が
融けるよー

血管が石灰化
して狭くなっ
てますなー



～ 最近 ～

良い薬のないころは、低カルシウムを改善するために透析液のCa濃度を濃くしたり、Pの摂取量をコントロールしたり、十分に透析してもらうことが主な治療でした。

そのうち腸からのCa吸収を助ける活性化ビタミンD製剤が使えるようになり、低カルシウムはコントロールできるようになりました。さらに活性型ビタミンD製剤から派生してきた注射剤の登場より二次性副甲状腺機能亢進もある程度コントロールできるようになって来ました。

それに伴い従来の典型的な骨の病気の頻度は減りましたが、心血管系の石灰化は依然として改善されていません。透析患者様の透析暦が増すにつれ血管の石灰化が助長する全身の心血管系の病気がクローズアップされてきます。

最近ではカルシウムは少なすぎても、多すぎてもいけない。またリンが高いことは心血管系の石灰化を直接的に助長することが盛んに言われ、これをコントロールして全身の石灰化を予防することが重要な治療の目標になっております。

最後はやっぱりリン管理。

長々と書いてきましたが、医学が発達するにつれ治療の目標が骨そのものから、全身の石灰化予防に移ってきていますが、やはり患者様には一番つらいリンの管理が重要と言う事実が残ってしまいました。

リンの管理と言えは蛋白制限、十分な透析による十分なリンの除去、リンの吸着剤の内服になります。これは患者様にとっては肉・魚の制限をし